

事業の背景・目的

背景：草原の劣化（草原の面積の減少、植生の変化）⇒フサヒゲルリカミキリ等の生息基盤の喪失
目的：草原の持続的な管理体制の構築に向けた支援、フサヒゲルリカミキリ等の生息環境の保全

課題

- ①伝統的な火入れの中断により草原維持に支障
- ②草原の役割、生物多様性保全上の価値が普及できていない
- ③草原植生の変化による希少種（フサヒゲルリカミキリ等）の減少

方針

- ①新たな草原管理体制の構築
- ②草原を維持することの必要性を啓発し、**支え手を増やす**
- ③希少種のための**環境回復作業（草刈り）を実施したい**

事業の内容

- 安全な火入れ体制の構築支援①
- フサヒゲルリカミキリ等希少種保全②③

■安全な火入れ体制の構築支援①

地元集落による伝統的な火入れが中断されたことにより、市民ボランティア等を主体とした新たな担い手が火入れを実施する体制を構築することが必要。
火入れ作業の安全性を高めるため、備品（ジェットシューター、動力散水機）や難燃材の手袋を購入する。

■フサヒゲルリカミキリ等希少種保全②③

フサヒゲルリカミキリにとってよりよい草原環境（採草等の利用が盛んであった頃）を回復するため、夏季に草刈りを実施する。
また、草原の生物多様性保全上の価値や本事業で行った成果を啓発するために、地域の自然学習施設での啓発資料の展示を実施する。

事業スケジュール

⇄：支援事業で実施 ⇄：自主事業

事業項目	H30	R1	R2
安全な火入れのための備品等購入	⇄	⇄	⇄
草原環境改善のための草刈実施	⇄	⇄	⇄
希少種及び草原の普及啓発	⇄	⇄	⇄

得られた成果

- 草原の持続的な管理体制の構築に向けたボランティア活動の動機づけと活性化
- フサヒゲルリカミキリ等の生息環境の継続的な保全

■安全な火入れ体制の構築支援①

火入れのための装備品を今回の事業により装備を整えることにより、活動継続のための大きな動機となっている。また、安全に火入れを実施できることで、市民ボランティアの増加、あるいは継続しての参加が期待でき、保全活動自体の活性化が期待出来る。

■フサヒゲルリカミキリ等希少種保全②③

必要な装備が準備されることで、火入れの安全性が高まり、ボランティア団体の負担が軽減され活動の定着、参加者の増加も期待できる。それにより半自然草原の植生維持が図られることで、フサヒゲルリカミキリの生息環境の継続的な保全が期待できる。

